

高円寺地域の新たな学校づくりに関する意見交換会

関係6校の保護者代表や支援者、町会関係者等の方々にお集まりいただき、平成22年6月28日に開催した意見交換会(全体会)及び4月から9月までに各校で個別に行った意見交換会において寄せられた意見と教育委員会の考え方などを掲載しています。

● 1. 再編案について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	計画はいつ頃、策定されるのか。また、計画決定から開校までのスケジュールはどのようなものか。	今年度(22年度)中に具体的な計画案の策定を目途に考えていますが、少なくとも方向性だけは今年度中に示したいと考えています。新しい学校の校舎を改築する場合は基本設計、実施設計に約2年を要し、その後工事を行うため、早くても平成28年4月頃の開校を目指すこととなります。
2	区が示した案1(小学校区域で分ける案)、案2(中学校区域で分ける案)のどちらかで進めることで決定しているのか。提示された案以外の組み合わせになることはあるのか。	区で検討した案を提示したもので決定案ではありません。意見交換会で寄せられた皆様からのご意見により提示の2案以外を採る可能性もあります。
3	この事業(学校再編)は、1期・2期などに分けて進めていくのか。それとも、一気に進めていくのか。	案2(中学校区域で分ける)の場合は、学区が分かれますので一期で実施せざるを得ませんが、案1(小学校区域で分ける)の場合は、小学校区域そのままなので、時期をずらすことも考えられます。
4	学校再編した場合の通学区域は、環七や青梅街道があり、通学するうえで安全面に不安を感じるのではないのか。	交通安全指導員を手厚く配置するなど人的措置により安全性を確保します。
5	中学校を現在のまま北側と南側の2校とした場合、1校あたりの人数が少ないと思う。区の考える適正規模との整合が図られないのではないのか。	地域で中学校を選択できるようにという要望もあり、中学校は現状の2校としましたが、魅力ある中学校づくりを推進し、生徒数増を目指します。
6	高円寺中学校の改築は決定しているのか。生徒は、改築工事期間中にどこの学校で生活するのか。	決定はしていませんが、高円寺中学校は老朽化が進んでいるため、近いうちに改築が必要となります。また、改築することとなった場合は校庭に仮設校舎を建築したり、杉並第八小などの校舎活用が考えられます。

7	杉並第四小校地との環七を挟んでの施設一体型小中一貫教育校については、校庭・体育館の使用方法について、どのように想定しているのか。	小中一貫校の教育活動に必要な規模を確保するには高円寺中学校の校地だけでは狭いため、杉並第四小学校の校庭・体育館を小学校高学年及び中学校の授業や部活動に活用したいと考えています。
8	移行期に小学校の学級数が減った場合に、専科教員はどのように配置されるのか。また、学校再編後の教員の配置はどのようなのか。	改築中の教員配置は、独自採用している区費教員の活用を図るなど、学校運営及び授業に支障が生じないように努力します。再編後は他の学校と同様に学級数に応じた教員の配置が行われますが、それに加え都費教員による統合加配や区費教員による積極的な活用により、教員配置の充実を図ります。
9	小中一貫教育と学校適正配置は財政上の問題により進められているのか。	小中一貫教育は児童・生徒の学びの連続性を保障し、成長に合わせた適切な指導をしていくためです。また、学校適正配置は学校の適正規模を確保して、子どもたちに望ましい教育環境を提供するために進めています。
10	現在、杉並第四小学校内に設置されている高円寺北幼稚園は、小中一貫教育校内に移設することになるのか。	今後、現在の位置とするか移設するか等も含めて皆様からの意見も踏まえつつ検討します。
11	学校の跡地はどのように利用するのか。	跡地利用については、地域関係者のご意見・ご要望も踏まえ、決定します。

●2. 小中一貫教育について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	小中一貫教育についての、区の考え・方向性はどのようなものか。	小・中学校間に存在する指導観や学力観などの違いを取り除き、義務教育9年間をとおして人間形成を図っていきます。そのために、児童・生徒の学びの連続性を保障する教育活動を区各学校や地域の実情等を踏まえ区立小、中学校全校で推進しています。また、義務教育9年間での小中一貫教育を核とした地域と協働する学校づくりを進めます。
2	小中一貫教育の取組みは、これまでの教育内容と大きく異なることになるのか。	学習内容は学習指導要領に準拠し、当該学年で習得すべき事項を確実に履修することとしており、学習内容や教科書などが変わるものではありません。
3	杉並第四小学校・高円寺中学校、新泉小学校・和泉小学校・和泉中学校で先行実	先行実施校では、学力調査や意識実態調査、学校評価、第三者診断等により、幅広い視点から検証を行っています。その結果、

	施されてきた小中一貫教育の成果や課題について、どのように検証し、どのように総括しているのか。	具体的な点でも、「連続性」のあるカリキュラムとして、小学校全学年で行っている英語学習を通しての学力向上に成果がでていますが、何より9年間を通して児童・生徒の成長を見守るという教員の意識のもと、学力の着実な定着や心の安定等に大きな意義があったと捉えています。
4	他の自治体の小中一貫教育の取組状況はどのようなものか。	東京 23 区内で小中一貫教育に取り組んでいるのは、杉並区を含めて 19 区あります。そのうち品川区・足立区・港区が施設一体型の一貫教育校を既に設置しており、今後は渋谷区・葛飾区が設置を予定しています。
5	この先、区内の他の学校でも、同じように施設一体型の小中一貫教育校を設置していく考えはあるのか。	小中学校が隣接していたり、広い用地を取得できたなど、一定の環境条件等が整った場合は、校舎の改築時期などに合わせて一体型施設を設置することもあり得ますが、原則として、既存校舎を生かして小中一貫教育の活動を充実させていく考えです。

●3. 施設一体型の小中一貫教育校について

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	小中一貫教育校とはどのようなものか。	小学生と中学生が同一の校舎内で小中一貫教育を実施する学校を「施設一体型の小中一貫教育校」あるいは単に「小中一貫教育校」と呼んでいます。
2	「中高一貫教育校」との違いはどのようなものか。	どちらも、6年あるいは9年という期間を接続し、計画的、継続的な教育活動を展開する学校ですが、小中一貫教育は、杉並区として責任を持つ義務教育9年間の学びの連続性を保ち、長いスパンで子どもの成長に合わせた指導ができることに特徴があります。
3	小中一貫教育校と一般的な小中学校とで、学校生活・学習面での大きな違いはあるのか。	施設一体型の小中一貫教育校は、小1から中3までが共に学校生活を営むことになるので、幅広い異年齢の関わりをもつことができます。 また、小、中学校の教員の打合せ、相談がしやすいことにより教員も9年間の学校生活や学習面に継続的に関わっていきやすくなります。
4	中学生と小学校低学年が1つの施設にいることへの不安を持つ保護者もいると思う。一体型施設のメリット・デメリットについて、どの	小学生は、あこがれの対象が身近にあり、自らの目標や希望を持ちやすくなります。中学生は、小学生に対する行動が多くなることにより、やさしさ、思いやりの心の醸成が図られるな

	ように考えるか。	ど、多くの先行実施校から異年齢の子どもたちが共存するメリットが報告されています。 一方で、施設等の面での体格差に対する安全面の配慮などが課題であると捉えています。
5	施設一体型となることで、教員に新たな負担が生じないか。	高円寺中と杉並第四小では既に平成19年以降4年間にわたる一貫教育の実施実績があるので、そのノウハウを活かし、できる限り負担が少なくなるよう工夫していきます。 また、区費教員の配置などで負担の軽減を図ります。
6	他の小学校を卒業して中学校から小中一貫教育校に入学した場合、問題が生じることはないのか。	小中一貫教育校であっても、教育課程は、学習指導要領に基づいて編成・実施するものであり、他の学校と大きく異なるものではありません。
7	施設一体型の一貫教育校になると、他学区から中学校へ入学してくる生徒はいなくなると思う。小学校入学の段階から、中学校の入学までのイメージを持たせなければならない。	中学部(中学校)部分でも、魅力ある活動等を発信していくことにより、中学部から入学したいと希望する生徒が出てくると考えています。小学部から在籍する児童に対しては、9年間をイメージでき、そのまま中学部に進みたいと思えるような教育活動に取り組んでいく必要があると考えています。
8	施設一体型の一貫校となることで、区内全域からの通学が可能となるのか。	地域と一体となった学校を目指しており、基本的には他の学校と同様に通学区域を設定する予定です。

● 4. 今後の進め方

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	再編までの移行期においては、児童数が減少する学校が現れる恐れがある。また、地域には更に色々な噂や風評が流れると思う。子どもたちへのフォローをどのように行うのかによって、保護者の不安も変わってくると思う。対応策などはいつ頃示されるのか。	適宜、地域の方々や保護者の方に正確な情報を提供し、事実と異なる風評が流れないように努めます。 統合する学校が決定してからは子どもたちの交流を深めるとともに、新しい学校はみんなでつくっていくという意識を高め、安心して通える学校をつくります。
2	関連する各校の保護者にはどう説明していくのか。特に影響の大きい杉並第八小学校と杉並第三小学校の保護者には早めに説明してほしい。また、町会等の会合にも資料を提供してほしい。	7～9月の間、関連するほとんどの小中学校において、保護者向けの説明会を実施しました。 また、地域の町会についても役員会で説明の場を設けさせていただいたり、関連地域の方全体を対象とした説明会を今後も引き続き実施していく予定です。

3	意見交換を、今後も各地域で行っていくのか。2つの案を示して意見を聞いているだけでは、同じような議論が続くだけである。	区が提示した案に加え、皆様からいただいた意見も踏まえて、区として一つの案に集約していきます。
---	--	--

●5. その他

No.	当日の主な質問	区教育委員会の考え方
1	この地域の人口等についての分析は行っているのか。企業の社宅が売却され、マンションになっている例もある。	地域人口の分析等を行っていますが、個々の社宅がマンションとなる傾向などは掴むことができないため、今後何らかの形で捕捉していきたいと考えます。
2	4校を2校に統合することが、高円寺全体にとって発展的な学校の形態であることをイメージできるようにする方がよいと思う。	今後の資料づくりなどは十分検討していきます。
3	杉並第三小学校内に設置されている特別支援学級はどうなるのか。	特別支援学級につきましては、新しい学校づくりの計画に合わせて区内全体の配置の中で対応していきます。